

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム あい (海ユニット)	評価実施年月日	平成21年 9月 14日
評価実施構成員氏名	長根山 雅巳 太田 いずみ 鳴海 文義 野澤 えり子	木村 勇祐 對馬 弘子 山内 サト子	
記録者氏名	長根山 雅巳	記録年月日	平成21年 9月 15日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>・作り上げている</p>		<p>・H20年4月に変更している。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>・個々のネームプレートの裏につけ、常に意識し業務を行えるよう身につけている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>・面会に来られた方の目に留まる様、事務所前に掲示してある。</p>		<p>・年2回家族会開催時に理念唱和を実施し、更に意識付けを行っていく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>・当ホーム行事(花火大会、七夕等)近隣の地域の方々に参加呼びかけや日常的な挨拶を行っている。近隣の小学校やスーパー、店舗等に行事の際は日程、参加呼び掛けのポスターを掲示してもらっている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>・町内会のお祭りには利用者と共に積極的に参加している。今年はずたっふも盆踊りの練習から参加させて頂き、当日は利用者共々参加し楽しむ事ができた。また、町会ボランティアの方々との繋がりもできた。 ・地域や町会等の美化運動や行事への参加を検討中である。</p>	○	<p>・研修会開催のポスターを作成し町会や近隣スーパー、コンビニに掲示してもらい地域の方々に呼びかけを行った。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>・運営推進会議の中で地域住民代表(町会役員等)との関わりから地域に認知症の理解と認知症ケアの啓発に努めている。 ・人材育成の貢献として実習生や職場体験(中学生)の受け入れも積極的に行っている。 ・スタッフ研修、家族会開催時にはご家族や町内会への呼びかけをし認知症の理解や接し方の勉強会等を行っている。</p>	○	<p>・近隣の小中学校に「認知症」を知って頂けるよう働きかけていきたい。認知症の人を支える会へ参加し学ばせて頂き、ホームとして地域貢献できる事を一歩ずつ進めていきたいと考え近隣小学校へは認知症についての勉強会開催についての検討をお願いしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・自己評価を全職員で行い、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は、スタッフ合同ミーティングで報告し改善に向けての検討や実践につなげるための努力をしている。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・前回の会議で取り上げられた検討事項や意見等について、改善できる事はすぐに改善する様スタッフミーティングを開きその経過や結果を報告し合い、一つ一つ積み上げてサービス向上に努めている。	○	・介護保険法改正ににともない介護保険法の勉強会開催を計画していきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	・普段はメールでのやり取りをしており必要時、市町村担当者に相談に出向くようにしている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	・H20.9.14 成年後見制度についての勉強会を開催した。家族会と同時開催した事で御家族と一緒に制度を学ぶ事ができ、ご家族の方からのお話を聞いたり資料を提供してもらったりと日常的に制度に触れる機会ができた。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	・委員会の設置を行っている。 ・研修会に参加しその後、スタッフ全員で勉強会を実施し高齢者虐待防止法に関する理解を深め日々意識してケアを行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・時間をとって説明している。契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。利用者の状態変化により契約が継続できない場合は、出来る限り本人を交え十分家族等と対応方針を相談するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・苦情・意見箱を設置。全職員が意識し日々利用者、家族等から意見等がないか声掛けをするよう努めている。出された意見は運営や日々のケアに活かしている。 ・日々利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。その時々利用者の不安や意見等は、各ユニット毎でミーティングを開き情報を共有し検討、解決するようにしている。	○	・虐待チェックシートの見直しを行い、再作成と実施。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	・月1回レシート・金銭管理出納帳コピー・金銭確認書送付時や定期的に会報を発行し利用者の状態や近況をわかりやすく報告するよう努めている。3ヶ月に1度、日々の様子を写真にまとめ手紙を添えて個別に報告を行っている。必要時、ご家族等にはこまめに電話での相談、報告も行っている。	○	・月1回は電話で近況報告と面会をお願いを行ってきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・苦情意見箱を設置。 ・家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させている。	○	・苦情対応ファイルを事務所前に設置し誰でも閲覧出来る様整備する。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・各ユニット毎に月1回、合同ミーティング月1回行い職員の意見や要望を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり聞き出したりするようにし、必要時には個別面談を行っている。 ・必要時、当社で合同管理者ミーティングがあり、ホーム職員の意見、要望を提案し十分に活かし質の向上に努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や就寝時利用者の状態やペースに合わせてその都度必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。非常勤看護師1名と非常勤介護員1名を配置しているので、利用者の状態の変化に応じ柔軟に対応可能な人員が確保できている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けている。移動や離職がやむ終えない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。 ・職員採用時にはホーム内の雰囲気が極端に変化しないよう採用の検討を行い、採用後は利用者నికిちゃんと紹介し、馴染みの関係を一日でも早く築けるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告は月1回の合同ミーティングで発表してもらい研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>	○	<p>・法人内他施設との合同研修会開催を今後検討していく予定。</p>
<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・北海道GH協議会に登録。市内に連絡会がありその中で情報交換やスタッフ研修会や懇親会への参加を行い質の向上に励んでいる。 ・関連の事業所や他事業所との交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。</p>		
<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>・日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。また、親睦の場をつくり気分転換を図れる機会をつくっている。</p>		
<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>・運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。・職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせるよう環境づくりに努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・事前面談は二人以上で行い生活状態を把握するよう努め、また、ホーム見学をしてもらい聞き取り等の中でご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。</p>		
<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>・事前面談やホーム見学時に利用者とは別に時間をとっていただき、これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞き取る様になっている。 ・ご家族の思いを理解し、事業所としてはどのような対応ができるかを事前にミーティングで話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつながるなどの対応をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・本人や家族に事業所の見学をしてもらう事から始めている。・やむを得ず、すぐ利用になった場合には、ご家族やそれまでかかわっていた関係者に来てもらう等して、安心感をもってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そういった場面が多くもてるようにセッティングや工夫や声掛けに配慮している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族との話し合いの場を多く持つようにしている。・家族会等で一緒に勉強する機会をもうけ認知症を理解することに努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。・手紙をご自身に書いてもらうなど関係が途切れないように留意している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・地域に暮らす馴染みの知人・友人等に遊びに来てもらったりホーム行事への参加をもらったり、電話での会話や手紙のやり取りと継続的な交流が出来るように働きかけている。	○	・ご家族・知人・友人と過ごせる時間をもっと提供出来る様に個別に外出支援を計画している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や場面づくりをする等、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり支援している。 ・利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにし注意深く見守るようにしている。 ・お茶・食事の時間は職員も一緒に多くの会話をもつようにし、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけをしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・サービスの利用が終了された方も行事に招待したり、遊びに来てもらったり利用者と一緒に遊びに行ったり等継続的な付き合いが出来る様に心掛けている。また、家族からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推測したりそれとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにし、本人がどのように暮らす事が最良なのかを家族を交え検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・サービス利用時にご本人や家族、関係者等から聞き取りをしている。また、利用後も折に触れご本人の語りや、家族、知人関係者等から訪問時少しずつ聞き取りし把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、生活・心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・本人や家族には日々のかかわりの中で思いや意見を聞いたり、必要時には時間を取ってもらい意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>37 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な管理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>・職員が情報を共有、確認し、家族や本人の要望を取り入れながら期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。</p>		
<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>38 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>・個別にファイルを用意し食事・水分量、排泄など身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしており、職員の気づきや利用者の状態変化は個々のケア記録に記載し職員間の情報共有を徹底している。、勤務開始前の確認は義務付けている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>39 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>・本人、家族状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるように努力している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>○地域資源との協働</p> <p>40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>・利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう、警察消防、民生委員等と必要時対応している。(sosネットワークあり) ・ヘルパー実習生や中学生職場体験学習等、積極的に受け入れるようにしている。</p>		
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>・利用者の状況や希望に応じて配食サービスや、本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている。また、福祉用具や介護タクシーも必要時利用している。</p>		
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>・運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくれ、これをきっかけに関係が強化された。支援に関する情報交換ができるようになっていく。また、包括主催の研修会等にも積極的に参加するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>・本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族対応で受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしており、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関との関係を密に結んでいる。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>・提携医療機関に専門医がおり連携を取りながら状態にあわせ相談や治療を行うことができている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>・看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている(24時間ONコール)。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。また、看護師と提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>・入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。医療機関にも事業所内で対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>・重度化に伴い必要時家族を交え話し合いを行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。・終末に関する対応指針を定め契約時には説明を行ってはいるが現在まで終末期を迎えたケースはなく、今後ケースが出てきた場合にはスムーズな対応ができるよう日頃から職員間で話し合いを持っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>・本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時、意志を確認しながら取り組んでいる。</p>	○	<p>・今以上に個別ケアを重視し、本人や家族の意向を踏まえ今後の方向性を随時検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>・他の事業所に移られた場合、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、馴染みの職員が機会を作ってホーム現利用者訪問に行くなど、ダメージを最小限に食い止めるよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>・勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を職員全員で点検、注意し合い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・利用者に合わせた声掛けや支援をしたり、意思表示が困難な方には表情を読み取ったりと、些細な事でも本人が決める場面作りに配慮している。(飲みたい物、食べたい物など)・一緒に買い物に出かけ食べたいメニューを決めてもらったりもしている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行っている。 ・買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・朝の着替えは本人の意向で決めて頂き、職員は見守りや支援が必要な時に手助けする様にしている。自己決定が困難な利用者には職員と一緒に考え本人の気持ちにそった支援を心がけている。また、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらったり、本人の希望に合わせてカットを行ってもらっている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・利用者と一緒にスーパーへ行き献立を相談しながら食材を購入したり、夏場はホーム畑でできた野菜と一緒に収穫し調理、盛り付け、片付け等も利用者と共にしている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・職員は一人一人の嗜好物を理解しており個別に外食対応したり、本人の様子や時間を見ながらそれらを楽しめるように支援している。また、お酒の好きな利用者にはご家族と相談のうえ楽しめるよう支援している。たばこについては職員が管理し、本人の希望にそって他の利用者の迷惑にならないよう配慮し、必ずスタッフが付き添い安全に吸えるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・一人一人排泄チェック表を記入し、排泄パターンを把握しトイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入浴日は基本的に決めてはあるが職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し本人の希望する時間に入浴していただいている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人一人の体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。 ・就寝時や夜間寝つけない時などは、温かい飲み物を提供したりコミュニケーションをとり穏やかに安心して入眠できるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事は頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。食事作りや趣味活動(塗り絵、読書、パズル、洋裁、音楽鑑賞、折り紙)、フットマッサージや外出支援(買い物、散歩)等、一人一人に合った楽しみや役割を持ち、楽しく張り合いを持って日々暮らせるよう支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族より預かり事務所が管理している方でも、外出時には自分で払っていただけるようお金を手渡すなどの工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩や買物、ドライブ等に出かけている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・温泉やファミリーコンサート・夜景見学と夜の夕食へ行ってみたいなど利用者の思いが出された時は、実現する為の方策を職員同士で検討し、支援につなげる事ができた。	○	・個別にご家族にも参加出来るように計画を立て支援に結び付けたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・家族や友人などに電話しやすい雰囲気づくりや職員からの声掛けを行ったり、利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・ご家族も気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間等は定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯にいつでも来訪していただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束廃止委員会を設置、身体拘束が行われていないか等点検している。 ・研修報告や勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。	○	・各ユニット委員がチェックシートで点検し、月1回の各ユニットミーティングでスタッフで検討し身体拘束廃止委員会会議に持ち寄り合同で再検討する。結果報告は合同ミーティングで行っていく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・利用者が外出しそうな様子を察知したらさりげなく声掛けをしたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。 ・職員の見守りの方法を徹底し、また、一人一人のその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで日中は玄関の鍵はかけずに自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・職員は同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間ごとに利用者の様子を確認し、また必要な方には個別に巡回を強化するなど安全面に配慮し支援している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によって注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・事故防止対策委員会を設置。 ・日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の対策について検討し家族への説明と報告を行っている。 ・ケースカンファレンスを行い一人一人の状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・消防署の協力を得て全ての職員が救急手当や蘇生術の研修を実施し対応できるようにしている。また、緊急対応についてもマニュアルを整備し周知徹底を図っている。	○	・ホームスタッフ以外に法人職員も協力体制に加わっている。・災害時の利用者一時避難場所を近隣に呼びかけ確保していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。 ・地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしている事をご家族にみてもらったり、具体的に説明をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	○	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>・H21.9.27 歯科衛生士を招き口腔ケアの勉強会を実施。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>・調理器具、台所水周りの清潔・衛生を保つよう職員で取り決め実行している。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りや賞味期限など点検を頻繁に行っている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>・明るい雰囲気玄関になるように花を植えたりプランターを置いたり、クリスマス時期にはイルミネーションを飾り季節感を演出している。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・茶碗を洗う音、食事準備の音や匂い、柚子湯や節句など、五感や季節感を意識的に取り入れている。</p> <p>・フロアの飾り付けや四季折々の飾り付けは利用者と一緒に考え行っている。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>・玄関や、廊下にベンチや椅子を置き1人で過ごしたり、仲の良い利用者でくつろげるスペースをつくっている。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>・タンスや椅子以外にもそれぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意し、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>・適宜温度計と利用者の様子を見ながら換気、調整している。トイレは換気扇と消臭剤を使用し悪臭が出ないよう工夫をしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でできるようになるかを追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。都度利用者の状況に合わせ職員全員で話し合いを行い、不安材料を取り除き力を取り戻せるよう努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・庭に花を植えたり、畑の中に車椅子利用者も入っていける様にスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら暮らしていけるような環境作りを行っている。・車椅子の方も外の空気や景色を楽しめるよう、ウッドデッキ等を活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> ②家族の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/>②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/>②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/>②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/>②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) ・ 家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切に、日々取り組んでいるホームです。